

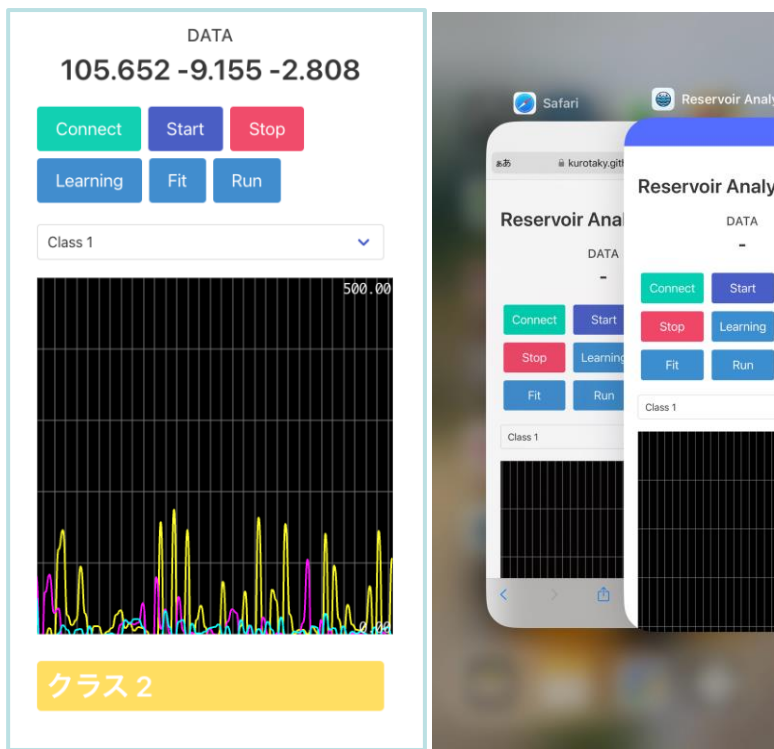
リザーコンピューティングを活用した エッジデバイス向けデータ活用プラットフォームの開発 - 「CanteenFlow Platformの開発」 -

黒瀧 悠太（GMOペパボ株式会社 SUZURI事業部 事業部 CTO）、
濱田 玲奈（合同会社MOR 代表／武蔵野美術大学 造形学部 通信教育課程デザイン情報学科）

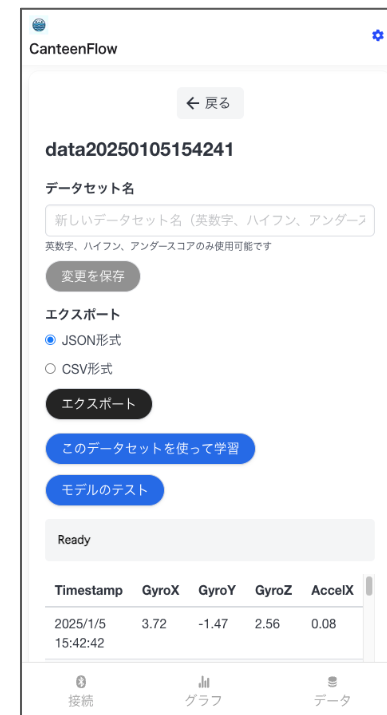
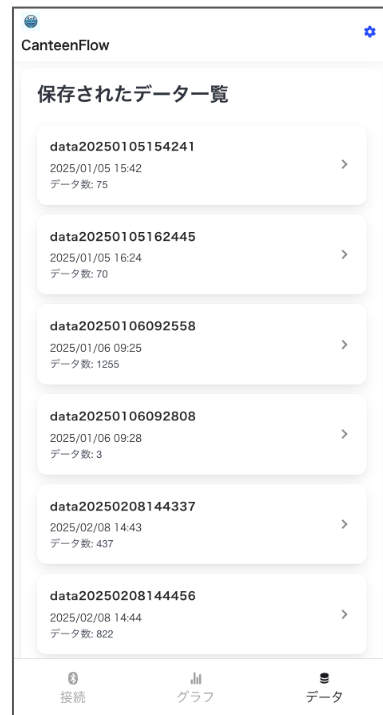


オフライン環境でもセンサーやマイコンデータの取得、可視化、動作分類、データの保存を一貫して行える。特に、エッジデバイスやIoT領域で研究・事業を行うユーザー向けに、継続的に活用可能なAI SaaS（Software as a Service）としての提供

- ・ 継続的な開発体制の構築
- ・ リリースからアプリの更新を自動化
- ・ ユーザーテストからの機能追加・改善
- ・ UIのリデザイン



昨年度作成した「CanteenFlow」のUI



ユーザーがより使いやすいようにUIをリデザイン



トレーニング開始

正しい動きを検知

少し速い動きを検知

遅過ぎる動きを検知

ユースケース例として、リザーブによるリアルタイムフィードバック機能を搭載したパーソナル筋トレアプリを作成